

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

飲料製造工場におけるボイラーの更新プロジェクト
（灯油→LNG）

プロジェクト 実施者名	ハルナプロデュース株式会社
----------------	---------------

妥当性確認申請日 2018年 11月 15日

プロジェクト登録申請日 2019年 1月 10日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がある場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) ハルナプロデュースカブシキガイシャ
	ハルナプロデュース株式会社
住所	群馬県高崎市足門町 39-1

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ)
住所	

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

1.3 Jークレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ) テス・エンジニアリングカブシキガイシャ
	テス・エンジニアリング株式会社
住所	大阪府大阪市淀川区西中島 6-1-1 新大阪プライムタワー

※1 Jークレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2～4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

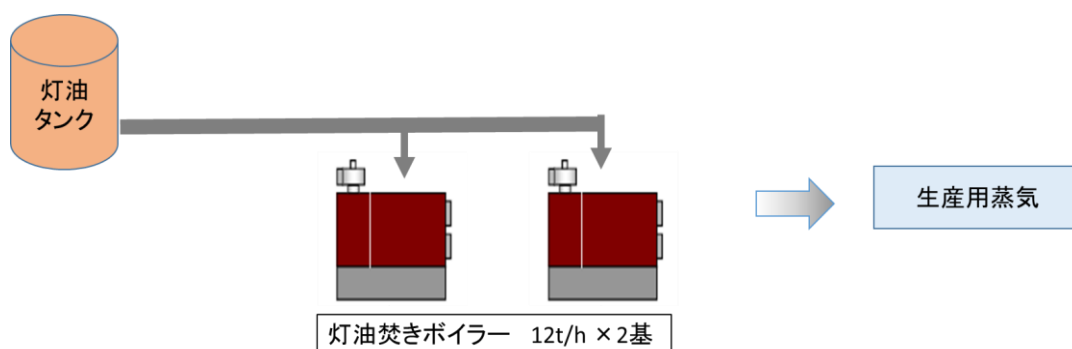
2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	飲料製造工場におけるボイラーの更新プロジェクト（灯油→LNG）	
目的	飲料製造用の熱源として使用している灯油焚き炉筒煙管ボイラーを高効率の LNG 焚き貫流ボイラーに転換することにより、省エネルギー及び CO2 排出量削減を行う。	
概要（削減方法）	灯油焚き炉筒煙管ボイラーを高効率の LNG 焚き貫流ボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO2 排出量を削減する。さらに、LNG は灯油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を LNG に転換することにより CO2 排出量を削減する。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	ハルナプロデュース株式会社 和歌山プラント
	住所	和歌山県海南市七山 711-1

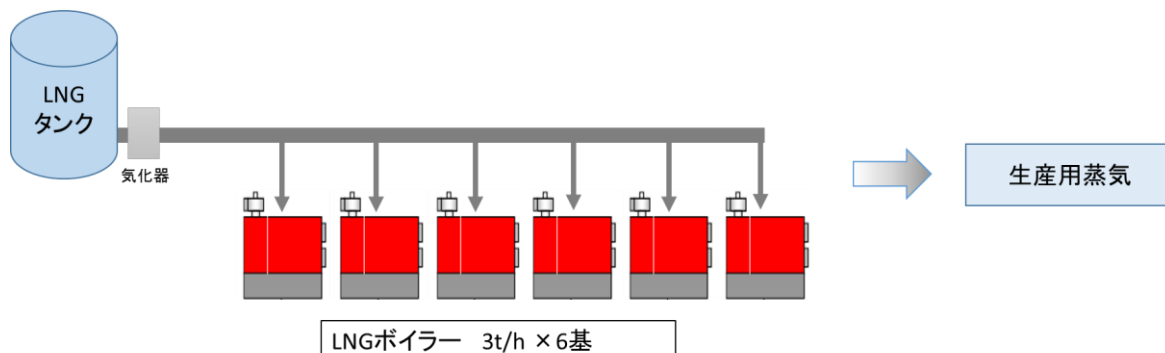
2.2 プロジェクト実施前後の状況

（プロジェクト実施前の概要図※1）：



※1 詳細な設備情報は別紙（A.1）に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること（具体的な記載範囲は記載例参照）。また、新設プロジェクト又は国内クレジット制度若しくはオフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトの場合にはベースラインとして設定した標準的な設備の情報を記載すること。

（プロジェクト実施後の概要図 ※2）：



※2 詳細な設備情報は別紙（A.1）に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること（具体的な記載範囲は記載例参照）。

2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	<p>■プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクトである</p> <p>□2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録を受けている ※2</p>
追加性	■追加性を有している ※3

※1 「プロジェクトの実施日」とは、温室効果ガス排出量の削減をもたらす活動が実質的に開始された日を意味する（例えば、設備の導入を伴うプロジェクトの場合、設備が最初に稼働した日とする）。

※2 国内クレジット制度又はオフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトについては、「プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクト」という要件を満たしている必要はない。ただし、標準的な設備をベースラインとして設定する必要がある。

※3 追加性評価に関する詳細情報は別紙（A.2）に示すこと。方法論の7. 付記において、追加性の評価が不要とされているもの（ポジティブリスト）については、別紙（A.2）の記入は不要。

3 方法論

3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-001 ver.1.1</u>
	方法論名称	ボイラーの導入
更新／新設 ※1	■更新プロジェクト □新設プロジェクト	

※1 ベースラインとして標準的な設備を設定する場合、「新設プロジェクト」となる。

3.2 方法論の適用条件への適合 ※1

条件1	■ 適合している	説明 ベースラインボイラー（事業実施前に導入されていたボイラー【92%(低位基準)】）に比べて効率の高いボイラー【98%(低位基準)】を導入しているため。 また、①更新前の設備の効率が取得でき（92%）、②更新前の設備の導入日は1991年12月26日であるため、更新前の設備の使用期間は法定耐用年数の2倍（30年）以内であり、現在も稼働していることから故障による更新ではなく、③プロジェクト実施後の設備の能力特性（最大出力蒸気圧：0.98MPa）は更新前（最大出力蒸気圧：10kgf/cm ² =0.980665MPa）のものと同様であり、④プロジェクト実施後の設備の定格能力（3t/h×6基=18t/h）は更新前の定格能力（12t/h×2基=24t/h）の1.5倍以内であるため。
条件2	■ 適合している	説明 ボイラーで生産される蒸気は全て工場内での生産用途に用いられているため。

※1 記載内容に関する根拠資料や関連情報等について、妥当性確認機関からの要求に応じて情報提供を行うこと。

3.3 モニタリング・算定方法

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	ボイラーの使用	CO2	－	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
付随的				<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	ボイラーの使用	CO2	－	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
付随的				<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input type="checkbox"/> 影響度により排出量を評価する <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する

※1 各排出活動の排出量算定方法及び影響度の算定方法については別紙（A.3）に記載すること。

※2 モニタリング方法については別紙（A.4）に記載すること。

4 排出削減計画

認証対象期間 ※1	2019年 1月 11日 ~ 2027年 1月 10日 (8年 0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2014年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2015年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2016年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2017年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2018年度	1003.4 t-CO2	743.6 t-CO2	259 t-CO2
	2019年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2020年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2021年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2022年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2023年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2024年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2025年度	4578.1 t-CO2	3392.5 t-CO2	1185 t-CO2
	2026年度	3574.7 t-CO2	2648.9 t-CO2	925 t-CO2
	2027年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2028年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2029年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2030年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
合計	36624.5 t-CO2	27139.9 t-CO2	9479 t-CO2	
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力のCO2排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

※1 認証対象期間は、プロジェクト登録の申請予定日若しくはモニタリングが可能となる予定日のいずれか遅い日から、同日より8年を経過する日若しくは2031年3月31日のいずれか早い日までの間で設定すること。

※2 排出削減量の算定方法については、別紙A.3に記載すること。

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	生産本部社会環境 Unit 執行役員 社会環境本部長兼和歌山プラント製造部長
モニタリング担当者 ※1	生産本部社会環境 Unit 社会環境 Sec 和歌山担当 リーダー

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクト実施後の LNG 使用量を購入伝票により把握し、毎月集計表に記録・保管する。・プロジェクト実施前後のボイラー設備の仕様書を保管する。・プロジェクト実施前のボイラー効率の根拠資料（メーカーからの回答）を保管する。
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u>2</u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。

※2 原則認証対象期間終了後 2 年間とする。

6 特記事項

6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、ベースライン排出量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	設備稼働時間の変更、生産量調整、自然災害による設備の稼働停止

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。